

子どもたちをとりまく状況を考える

講師 横川和夫さん(元共同通信記者・ジャーナリスト)

「少年事件 取材からみえてきたもの」

日時 2009年7月17日(金) 午後6時30分から午後8時30分

場所 四谷地域センター11階集会室4(東京都新宿区内藤町87番地)

共同通信時代から教育問題や少年事件を追い続けている横川和夫さん。新聞紙面だけではわからない深い背景と問題を、誠実なルポルタージュにまとめあげてきた。それらの多くは本にもなっており、多くの読者をもつ。厳罰化の流れのなかで見えにくくなっている「少年事件の真の問題」を、皆さんと一緒に考えましょう。どうぞご参加を。

(先着30名 参加費500円)

【代表的な著作】

『荒廃のカルテ—少年鑑別番号1589』(1985年 共同通信社 新潮文庫版あり)

『かげろうの家 女子高生監禁殺人事件』(保坂渉共著 1990年 共同通信社)

『ぼくたちやってない—東京・綾瀬母子強盗殺人事件』(保坂渉共著 1992年 共同通信社)

『仮面の家 先生夫婦はなぜ息子を殺したのか』(1993年 共同通信社 新潮OH!文庫版あり)

『いのちを抱きしめて—英子からのメッセージ』(西山明共著 1990年 情報センター出版局)

『大切な忘れもの 自立への助走』(1997年 共同通信社)

『降りていく生き方—「べてるの家」が歩む、もうひとつの道』(2003年 太郎次郎社)

案内図

